

相談しやすい環境づくりの大切さ

いじめは以下のような要因で発見しにくいケースが多くあります。

- 大人の目に付きにくい時間や場所を選んで行われやすい。
- ① 無視やメール、ネット上など客観的に状況を把握しにくい形態
- ② 遊びやふざけ合いのような形態
- ③ 被害者なのに加害者と仲の良い仲間の一員のような形態
- ④ 部活の練習のふりをして行なわれる形態

- いじめられている本人からの訴えは少ない
 - ① 親に心配をかけたくない
 - ② いじめられる自分に原因があるんだ。
 - ③ 訴えても大人は信用できない
 - ④ 訴えたらその仕返しが怖い
- このような心理が働き、周りの大人や友達に相談できない。

このような状況の中で、いじめられている子が我慢していると、いじめはどんどんエスカレートしていきます。



からかい
仲間外れ

悪口
罰ゲーム

無視・プロレスごっこ
物を隠す壊す

脅迫・恐喝
強要・障害

また、加害者が自分はいじめしていないと思っている（いじりやからかい、悪ふざけ）こともあり、長期化してしまいます。

このような状況から守るために
相談しやすい環境を！

子どもたちが、大人にいじめの相談をすることは非常に勇気のいることです。その勇気を大切にするため、①相談者の心身の安全を保障する。②事実関係や気持ちを傾聴する。③周りの子からの訴えには、その子へのいじめが新たに発生することを防ぐ。④訴えてくれた勇気ある行動を称え、情報の発信元は絶対に明かさなことを伝え安心感を与える等の配慮を十分に行い、大人に相談しやすい環境づくりをすすめることが大切です。



いじめのないまちづくりをめざして！ —多様性やみんなとのちがいを認めにくい子どもたち—

みき しれんごう していこうけんきゅうはっぴょうかい れいわ ねん がつ か きねん
三木市連合PTA指定校研究発表会(令和2年2月9日)記念
講演より

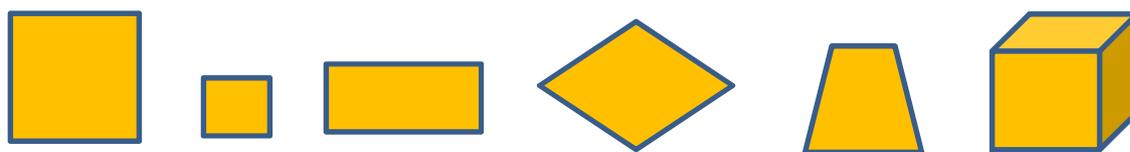
講師は、兵庫県の小・中・高校でスクールカウンセラーを
されている中村経子さんです。テーマは「誰ひとり取り残さない
教育環境をめざして～スクールカウンセラーの視点から～」
でした。



子育ての中で、親は「人に迷惑かけないように」とか「みんなちゃんとし
ているんやから、ちゃんとしいよ」とか「みんなと同じようにしなさい」と
言ってしまいやすいそうです。そのことにより子どもたちが多様性を認めな
い子どもが育つ原因ではないかと講演の中でお話しされていました。自分は
きちんとしておこう、みんなと同じようにしておこうとしてストレスがたまり、
少しでもみんなと違う事をするこどもたちに対して、攻撃的になる傾向
があるそうです。これがいじめの原因の一つでもあると言われていました。

中村さんは、小・中・高校の「いじめ防止授業」をたくさんされていま
すが、その時にいつもするゲームを会場の皆さんにもされました。

「一人一人の考え方はとても様々だ」という実験です。中村さんが参加者
(約190人)に紙を配り「この紙に四角を描いてください」と指示されまし
た。するとこのようないろいろな答えが出てきました。

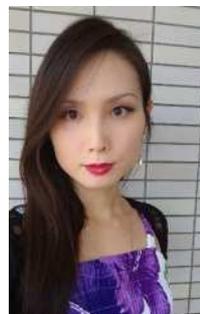


多くの方は正方形を描きました。でも大きさは様々です。ひし形や立方体
を描く方もいました。人間は、他の人と自分に違いがあると不安な気持ちに
なります。もし自分との違いを見つけたら、相手を否定し自分を正しい存在
だと思ふ事で安心するそうです。描いた四角を見せ合ったときに、変わった
四角を見つけて「こんな絵を描くのおかしいやろ」と言った方がいたとした
らそれはいじめにつながるそうです。いきなり少数派の考えを否定するの
ではなく、「おーっ、そうきたか」と相手を一度認めて、自分の意見を言うこ
とが大切だそうです。相手の気持ちを大切にしたいものですね。

男女共同参画セミナー講演会より

令和2年1月31日に教育センターで開催された、弁護士の仲岡しゅんさんの講演会の内容からこの少数者に対するいじめについて考えてみたいと思います。講演会のテーマは「自分らしい生き方って？ ～多様な性の存在と、生き方の尊重～」でした。

仲岡さんは、戸籍上は男性ですが、女性として弁護士登録をされています。(MBSのミントという番組にコメンテーターとして、主に水曜日に出演されています)



性的少数者（セクシュアルマイノリティ）とは

性同一性障害 = 身体の性が男性で心の性が女性、または、身体の性が女性で心の性が男性の人。

性的指向 = 恋愛感情、性的欲求の対象となる相手の性別。

性自認 = 自分の性をどのように自覚しているか。自分は男だ、女だという自己認識。

ほとんどの人は身体の性と性自認が一致しており、性的指向は異性に対して向けられることがほとんどです。しかし、そのほとんどに当てはまらない人を性的少数者（セクシュアルマイノリティ）と言います。

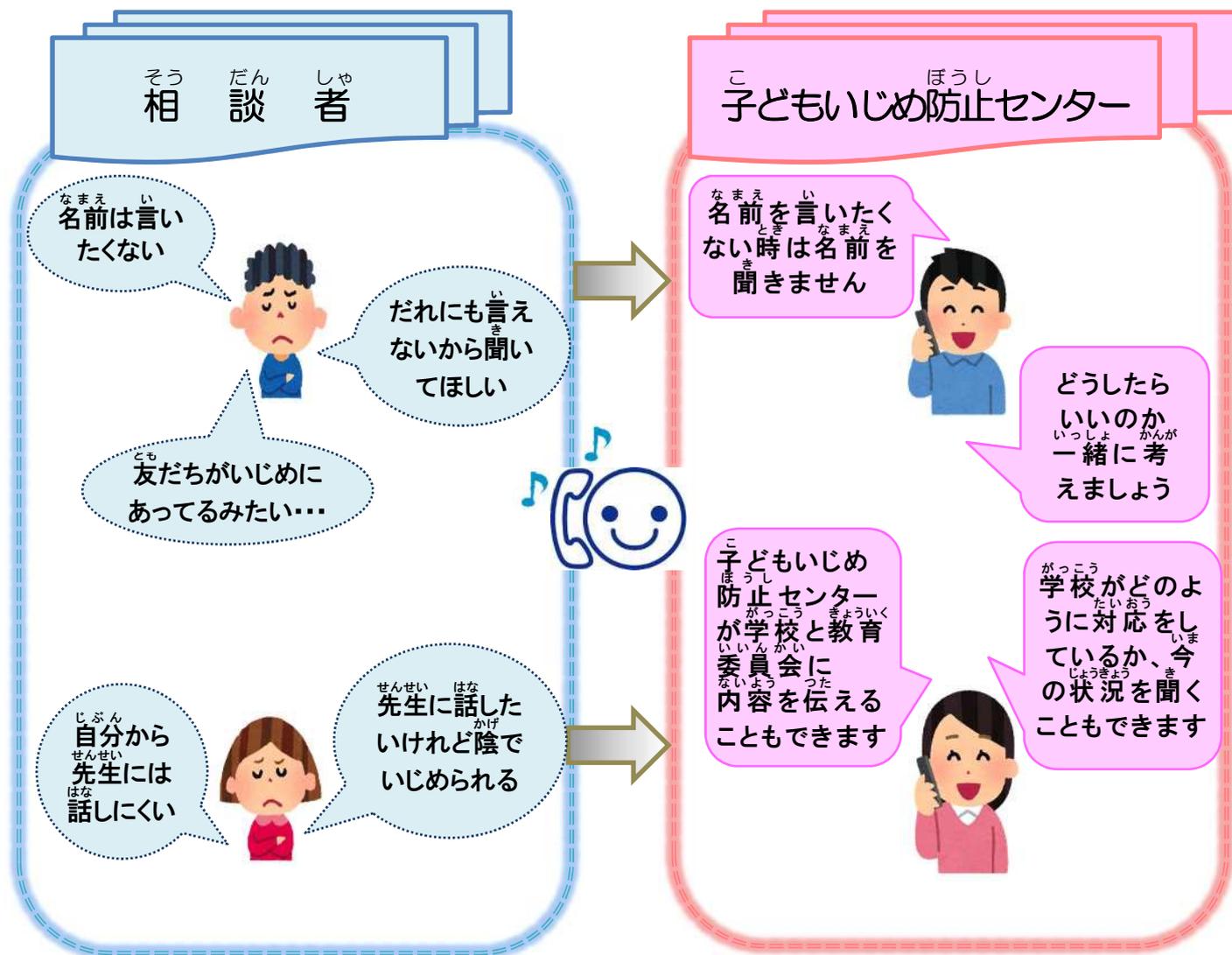
このようなセクシュアルマイノリティの人は、人口の数パーセントはいると言われています。クラスの中に1人以上いる計算になります。目立たないのは、まだ自分では気づいていない人や、カミングアウト（自分から言うなど）していない人が多いからだと思います。

周りの人は、数が少ないからといって仲間外れにするのではなく、貴重な個性だと思ってほしいです。また、当事者も「自分は金や銀のように貴重な存在だ」と思っ

て悩んだりしないしてほしいとも言われていました。セクシュアルマイノリティが抱えている問題は、すべての人権問題につながります。なぜその人の生き方が阻害されているのかを考えいじめにつながらないようにしていきたいものです。



なや でんわ ひとりで悩まず電話しよう！



教育委員会、学校と連携して
いじめの解決に取り組みます

三木市子どもいじめ防止センター 電話：0794-82-8110

相談日：月～金（土曜・日曜・祝日はお休み） 時間：午前9時～午後5時

Mail: ijime_boshicenter@city.miki.lg.jp

スマホなどでQRコードが読み取れるなら⇒

